



みなと

みなと 50号 2016年12月1日

兵庫県声の図書赤十字奉仕団

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5

日本赤十字社兵庫県支部内

(Tel) 078-241-9889 (Fax) 078-241-6990

代表者 久保田加奈女

編集者 八木 はるみ

第27回交流会



平成28年度 兵庫県声の図書赤十字奉仕団 第27回交流会プログラム

2016年11月23日(水)

司会 山木梨花

12:00 開会挨拶 兵庫県声の図書赤十字奉仕団委員長 久保田加奈女

挨拶 日本赤十字社兵庫県支部奉仕課 平野課長

来賓紹介 姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団

リスナー代表挨拶 牧野まりえさん

リスナー紹介

12:20 昼食

13:00 イベント(ヴィオリラコンサート) 出演 ヴィオリランパール

13:50 歓談(交流の時間)

14:50 全員合唱 「きょうの日はさようなら」

閉会挨拶 交流会実行委員長 門田真弓美

15:00 閉会



平成 28 年度 兵庫県声の図書赤十字奉仕団第 27 回交流会を終えて

風の強い急激に気温の下がった朝でしたが、交流会が始まる頃には風も穏やかになりました。リスナーさん 57 人と同行者 47 人、団員 65 人、支部から 2 人、来賓 2 人、イベント出演者 4 人 総勢 177 人が集い久保田委員長の挨拶で始まりました。日本赤十字社兵庫県支部の平野奉仕課長と岩井奉仕課ボランティア係長また姫路赤十字看護専門学校奉仕団の長友様と安田様を紹介後、平野課長とリスナー代表として牧野まりえ様にご挨拶をいただきました。昼食のお弁当は「今年も美味しかったよ」と好評でした。1 時からヴィオリラコンサートです。大正琴を元に弓で演奏できるように 2001 年に開発された新しい楽器です。ヴィオリランパールの淑女 4 名はピンクやブルーのロングドレスで登場し奏でるその音色は繊細で美しく弦楽器のようでした。赤とんぼや紅葉の合唱、リズム体操で手や足を動かし、岸壁の母は感情を大きく表し抑揚をつけた歌い方に大笑いしました。アンコールは港町十三番地、大合唱になって会場に響きわたっています。ヴィオリラを弾いてみませんかの呼びかけに多くのリスナーさんが立ち上がり、ヴィオリラに初タッチ、皆様興味津々でした。

今年はリスナーさんの提案で歓談時に音楽を流しました。歓談の時間は短かったかもしれませんが 12 のテーブルから意見、感想を發表していただきました。その中で連続ラジオドラマ風に配役を決めて毎月録音して欲しい、朗読者自身の旅行記がいいです等の希望もありました。交流会で久しぶりに会い沢山 お話ができ楽しかった。迷いながらも参加しやっぱり来て良かった。と嬉しい言葉ばかりです。27 回もの積み重ねで居心地の良い場所を作ってきたのだなと思いました。



また今回改めて交流会の役割分担の重要性を知りました。それぞれの方々が的確に対応されて無事に終わることができ厚くお礼を申し上げます。行き届かないところもありましたでしょうが、精一杯務めさせていただきました。終了後に団員の皆様と 1 本締めをしましたね。いい音でした。ありがとうございました。交流会実行委員長 門田真弓美 (ことばの花束)



ヴィオラランパール淑女4名の演奏



多くのリスナーが楽器の周りに集まり、ヴィオラに初タッチ

デイジー班



デイジーの”受け入れ”って何の事ですか？ 何をするのでしょうか？

”はい リスナーさんより返却されたCD「声のアルバム」に「お帰りなさい。お疲れさまでした」と言い、点呼をとり、無事を確認して、来月もよろしくと言う所です。

主な作業内容をご紹介します。

緑の袋に赤枠の宛名カードが「声のアルバム」です。ちなみに青枠は単行本です。

では始めましょう。 緑の袋からCDを取り出し宛名カードも抜き出しセットにして”あいうえお”順 あ行か行…と行別に並べます。お便りがあれば一緒です。

次に”リスナーさん個別カード”と”受け入れチェックリスト（リスナーさん一覧表あいうえお順）”に該当する月号に受け入れた日にちを記入。
CDおよびケースのキズ・破損などの状態チェック・記録。

月号別の合計とCDの合計枚数など照合確認（これが時にとっても大変）記入して記録作業は終わりです。

最後はCDの次回使用に向けての下準備です。

ケースに貼り付けの月号ラベルをはがし、内容の全消去対象とそのまま継続使用CDの選別です。4回使用が全消去の目安。使用年毎に色が決められており、使用月と全消去月はそれぞれ

「●」と「___」で表示されています。この全消去選別が最初は混乱でした。

ですが、狭いスペースでのよく考えられたしくみで感心しました。

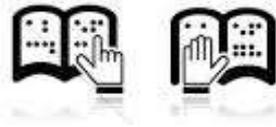
キズ・破損・全消去対象 それぞれ輪ゴムでまとめてメモをつけて、それら以外とともに所定の場所に納めて終わりです。

2008年6月号より95名のリスナーさんへの送付が始まってから増えたり減ったりしながら、2016年11月現在で221名のリスナーさんに月一回の発送日に一斉に送付され順次返却されます。発送日より一週間ほどで返ってくることもあれば数か月、一年以上の時もあります。設定受入日は第1及び第3月曜日の月に2回ですが、適宜作業をします。一年前のアルバムの返却があった時は、よかったよかったご苦労様でした、と思います。

日々の生活もすべて丸く受け入れ丸く収まるよう生きたいと思う今日この頃です。

孝橋 多賀江（青年B）

点字班



点字班に入れて頂いて1年半となりました。

皆さんベテラン揃いの中でこれは場違いのところに迷い込んだと内心思ったりもしたのですが、皆様の優しさと視覚障害者の方への寄り添う気持ちに接し、私も何かお役に立てればと思い今日まで続けて来ました。しかし残念なことに入会以来何から何まで教えて頂いた本川勝子さん、福井克子さんが相次いでお亡くなりになり心の中にポッカリ穴が開いたような気持ちになりました。

六点の組み合わせで文章が出来る素晴らしさを知って、長い時間かかるとは思いますが少しでもマスターする事がお二人に対しての感謝だと思っています。

点字に接して改めて思いました。エレベーター、新幹線の車内、駅の改札、トイレの洗浄ボタンそしてビール、ジャムのビン等々、私たちの周りには点字が沢山表示してあります。まだまだ読むのには時間がかかりますが今まで知らなかった事が覚えられたことを何となく嬉しく思えました。

興味のある方は是非入会してみませんか！

尚、例会は第2火曜日の10時から午後3時までです。午前中はミーティング及び勉強会、午後は作業となります

平野治子 (こすもす)



朗読・音訳を見直す会



朗読と音訳の狭間

「朗読・音訳を見直す会」に参加して約2年。そこでいつも問題になるのが、いろいろな意味で「朗読」と「音訳」の狭間である。どうすれば視覚障害者に寄り添いながら、心地よく理解して頂ける「読み」ができるかということだ。

「朗読」は読み手が感情を込めて、作品として仕上がったものを聴き手が鑑賞するもので、芸術性と読み手の個性が前面に押し出されている。一方、「音訳」は視覚障害者が情報を得るために利用するもので、情報を正しく声で伝えるものだ。

しかし、その両者の間に、読み手の存在をあまり感じさせず、そして違和感なく正しく伝える「読み」が存在してもいいのではないか。

「朗読教室」は各所に存在し、「朗読」についての文献はあったが、残念ながら比較的新しい分野の「音訳」や、朗読と音訳の間の「読み」について書かれたものは見当たらなかった。「音訳マニュアル」だけに頼っているのは、全く味気ないものになってしまうのでは……。

日本語は話し言葉と書き言葉が分離しており、さらに漢字が表意文字であることから、一見すれば理解できる言葉も音声だけではとても正確に伝えられない。とはいえ1つ1つの文字の説明まで付け加えたりすると、作品の味を著しく損ねてしまうことになる。

最近、NHKの「朗読の時間」（第2放送・午前9時45分～10時）をホームページのストリーミングで聴いた。昭和初期の関西を舞台にした谷崎潤一郎の「蓼喰う虫」（1928年発表の新聞小説）。全30回を原文と突き合わせながら丹念に聴いたが、現在では分かりにくい言葉も、巻末の懇切丁寧な注解が紹介されることは全くなかった。ただ1ヶ所「めくら」という差別語は「めしい」と読み替えられていた。もっとも「今日では使用されない表現も、作品の歴史性と作者の意思を尊重して原文のまま読みました」との断りはあった。視覚障害者が対象であっても、文学作品の場合、こうした方法も認められると思う。私自身、注解を見ながら聴いていなかったのが不明の箇所は度々あった。とはいえ谷崎文学の独特の雰囲気は十分に味わうことができた。

一方、NHKの洪水のニュースでは、「計画高水位」を「設計上、堤防が氾濫に耐えられるとされる上限、計画高水位…」と専門用語の前に説明が付いていた。この方法なら、いかにも「音訳」という不自然さを感じさせず、ほんの一瞬でも？という気持ちを抱かせずに伝えられる。報道記事では正確に理解されることが第一義であろう。

PCや電子辞書で検索すれば、人名、地名の読みはもちろん、ほとんどの事柄が即座に調べられる。私が遭遇した例だが、「アンペルマンの信号機…」という個所で、検索によって「旧東ドイツ時代に誕生した絵文字の歩行者用信号機」と判明した。利用者に寄り添うのであれば、情報記事などでは、これくらいの簡単な説明を付け加えてもいいのではないか。

朗読と音訳の狭間に落ち込んでいる昨今、次のような発言に心が少し明るくなった。妻が朗読家である作家が「朗読と身近に接するようになってから、自分の文章では同音異義語や、あいまいな固有名詞（A市とかK子といった）の使用を避けるようにしている」と話していたのだ。このような風潮が広がれば、私たちにとってどんなにありがたいことだろう。

小石 則子（青年）



単行図書検討会



団員の皆さんには、平素、単行図書の製作にご尽力くださりまして有難うございます。お蔭さまで、今年度も順調に単行図書が完成しており感謝申し上げます。

当会の目的は、より良質な単行図書を、より多くのリスナーに届けることですが、そのために、前年度、前々年度は、単行図書目録 CD 版をリスナーに差し上げて、目録を常に聞いていただけるようにいたしました。今年度は、「つちのこ」に、「単行図書お薦めコーナー」を設けてもらい、10月号より、既刊の蔵書の中から数冊ずつ紹介してもらうことにいたしました。なお、新刊図書は今まで通り「花時計」「やまなみ」で紹介してもらっています。

現在の課題は、単行図書の読み手をいかに増やすかということです。一冊の本を読み通すことは大変ですが、楽しみに待ってくださっているリスナーの方々がおられますので、ぜひチャレンジしていただきたいと思います。短編集などを分担して読むとか、プライベート本を読むことから始められてはいかがでしょうか？

「みなと 49 号」(2016 年 6 月 1 日発行)に、リスナーの森幸子さんからの単行図書に関するご意見が掲載されていましたが、森さんには、単行図書検討会から以下のようにお答えしました。

1. 全国の点字図書館と重複している図書が多い。同じ図書を製作するのはもったいないので、独自のものを録音してほしい。

(答) 日赤声奉の単行図書を聴いてくれるリスナーがいるので、声奉の蔵書として充実した内容にしたい。リスナーからのリクエスト本は最優先に録音するようにしている。

2. 一冊の本を複数で読んでいる場合、内容によっては、違う本を読んでいるような違和感を覚えることがある。

(答) 複数で読む場合は、主人公が異なる短編集など、声が変わっても違和感のない作品を選んでいるが、今後も作品選びに気をつける。

3. 点字図書館では、新刊本の製作状況が分かるようになっているので、完成を楽しみに待つことができる。

(答) 今の段階では、製作状況がすぐ分かるようなシステムにはなっていない。今後、リクエスト本については、リクエストしたリスナーに製作状況を折にふれ知らせる。

最後に、単行図書の録音に関してですが、一番良い校正表は何も書かれていない校正表だ、と聞いたことがあります。後から修正しますと、どうしても前後と音量や音質が変わり、聞きにくい録音になりがちです。良質な図書を作るポイントは、自己校正の徹底だと思います。自己校正の際は、誤読やアクセントだけでなく、音量は適切か(マニュアルでは、-6dB~-12dBの範囲)、音量にばらつきがないか、間は適切か、ノイズはないか、などにも注意を払ってください。宜しく願いいたします。 池内 早苗 (こすもす)

花時計プログラム

花時計 7月号 (はあもにい)

1. わくわくドキドキ どんな人に会えるかな？
2. ミュージックカフェ Singing in the Rain
3. やまと言葉って何？
4. メキシコ旅行記 古代文明とチョコレート
5. 災害時に役立つ料理
6. お知らせ
7. お便り

花時計 8月号 (神戸 YWCA)

1. オリンピックの思い出
2. スペイン バスの旅
3. 100BAN スタジオを訪ねて
4. 子供服ファミリアの話



花時計 9月号 (こすもす)

1. 星野道夫 旅をする木より「北国の秋」
2. お酒のエッセイ
3. 朗読劇「小鳥を好きになった山」
4. あまから手帖より「阪神間のカオ」
5. 折々のことば
6. 暮しの手帖「すてきなあなたに」より
7. 新しい単行図書のご案内
8. 交流会のお知らせ
9. お便りコーナー

花時計 10月号 (あかりの会)

1. 一度は使ってみたい季節の言葉
2. NHK ハート展
3. 秋の歌
4. 小僧の神様
5. クイズにチャレンジ
6. 18才と81才
7. ホセ・ムヒカさんの幸福論
8. 新刊図書のご案内
9. 交流会のお知らせ

花時計 11月号 (ともしび)

1. 輪樽の製造所を訪ねて
2. 鶴の笛
3. 時代を生きた女たち夏目鍾子
4. 落語家のとじ蓋
5. お便り紹介

花時計 12月号 (ことばの花束)

1. あなたはあなたのままでいい
2. 信州発 3010 運動-食品ロス削減の取組
3. 私の援農体験
4. 朗読「乗り換えの多い旅」
5. 見えないから見えたもの
6. キューバに行きたい
7. お知らせ

リスナーだより



中原真理子さん H.28.6.6

花時計 5月号を聴かせていただきました。ともしびグループで旅の新幹線や青春割り切符の旅や山崎探訪やエッセイなど盛りだくさんの内容ですね。レポートも想像しながら聴かせていただきました。今後もエッセイもありますが、レポートも期待してます。

香山良樹さん H.28.6.24

地震や火山の時の避難について大いに勉強になります。阪神淡路大震災の時には、晴眼者がうちにいましたし、食料調達などあまり不自由はありませんでしたが、視覚障がい者は大変不自由を強いられます。防災に関する情報、これからも折にふれて教えてください。

牧野まりえさん H.28.7.4

こんにちは。九州での大雨、ほんとうに気の毒でなりません。古川なおこさんの「花時計」“あじさいとシーボルト”、「雪」の“島守の塔”が心に残りました。大変ありがとうございました。

中原真理子さん H.28.7.26

花時計 7月号を聴かせていただきました。今月は、はあもにいの皆さんなのですね。神戸地方気象台の方の話はじめて聴かせていただきました。知らないことも分かっていい勉強になり良かったです。“ミュージックカフェ”ですが、雨の音楽なかなか良かったですし解説も面白かったですよ。雨の歌にもいろいろ沢山あるものですね。よく集めたものだと思います。

“防災に備える”で、いろんな献立教えていただき、いい勉強になり、災害の時には役立っていいなと思いました。

香山良樹さん H.28.9.5

日赤声のアルバム、ありがとうございます。いつも楽しいだけでなく勉強になる話題ありがとうございます。年々暑さが増しています。神戸は他の地域に比べやや低めの気温でしたが、36度を超すようになりました。この酷暑どのように乗り切っていますか。日赤の皆様の健康が守られますように。

中原真理子さん H.28.9.13

“オリンピックの思い出” YWCA グループの担当なのですね。今まさに熱戦が繰り広げられていますが、もう少しなので日本勢も頑張ってもらいたいです。“スペイン バスの旅”ですが、行ったことはありませんが、その情景を想像しながら聴きました。フラメンコは見たことはないけれど、きっと情熱的な踊りなのでしょうね。“子供服ファミリア”の話も知らないことが多くて良い勉強になり、話を聴かせていただきました。有名な話ですものね。

香山良樹さん H.28.9.27

この度もいろんな話題をありがとうございます。役に立つ情報、勉強になる情報ありがとうございます。

最近、雨の降り方が異常で、昔はこういう降り方はなかったように思います。ぼくは地球温暖化は人の力では防ぐことはできないと思います。

上山 勇さん H.28 10.18

いつも声のアルバムをお送りいただき、ありがとうございます。楽しみに聞かせていただいています。興味のある記事がたくさんある時は、返却が遅くなってすみません。



訃報

本川勝子さん（ことばの花束 G）・・・8月19日 ご逝去
福井克子さん（はあもにい G）・・・9月8日 ご逝去

ご冥福をお祈り申し上げます



編集後記

「みなと 50 号」を迎えました。バトンタッチしながらここまで繋がりましたのも、支部の皆さま、声奉団員皆さまのご支援ご協力のおかげと存じます。手書き原稿の「みなと」からスタートし、いろいろと工夫を重ねてこられた先輩書記の方々のご努力にも心から感謝を申し上げます。

奉仕団活動に精力を傾けられた本川さん、福井さんが相次いで天国へ旅立たれました。たくさんのお話を教えていただきました。おふたりの真摯な生き方を心に刻み、来年度も皆さまのご協力を頂きながら「みなと 51 号」の新たな頁をお届けしたいと思います。

来年は「神戸開港 150 年」。グループの枠を超えて、開かれた声の図書赤十字奉仕団「みなと」も、さらに発展していきますように…。2016 年も残すところあと 1 か月、お健やかに新しい年を迎えられますようお祈り申し上げます。

(八木はるみ)